

## 第一幕：新作たい焼き誕生

（舞台：『たい焼きトム』の店内。ポツ  
プでカラフルな装飾。カウンターにはた  
い焼き機が並ぶ）

トム（興奮気味に）「魚住！ついに来た  
ぞ、この時が！新時代のたい焼き革命、  
降臨だ！」

魚住（不安げに）「まさかまた新作です  
か？ 前回の『納豆チョコたい焼き』でお  
客さん泣いてましたよね？」

トム（胸を張って）「イエス！今回はよ  
り洗練された、極上の一品！その名も：  
『CHEDDARチーズたい焼き』だ！」

（カウンターのの上にドンツとチーズがと  
ろけるたい焼きを置く。香ばしいチーズ  
の香りが広がる）

魚住（眉をひそめる）「たい焼きって、普通は甘いおやつですよ？ これ…チーズが溢れ出してるし、皮まで黄金色になって…カリカリしてる…？」

トム（目を輝かせ）「そう！このたい焼きは、外はサクサク、中はとろーり！たい焼きの皮にバターを塗ってカリカリに焼き上げ、その中には、濃厚なCHEDDARチーズがたっぷり！口に入れた瞬間、芳醇な香りとコクが広がり、じわっと染み出すチーズの旨みが舌を支配する！まさに禁断の背徳グルメ！」

魚住（小声で）「飯テロすぎる…」

（試しに一口食べる魚住。しかし…）

魚住（目を見開く）「……な、なにこれ！？たい焼きなのに、まるでチーズフォンデュ！？こんなに濃厚なのに、後味はスッキリ！？しかも、皮の香ばしさとチーズ

のコクが、絶妙に絡み合って：うわあ：  
止まらない！」

トム（ガッツポーズ）「だろ！？俺の  
狙いはここにある！甘いだけがたい焼き  
じゃない、これは、進化した、未来のた  
い焼き！」

（外に「新作！チェダーチーズたい焼き！」  
と書かれた派手な看板を設置。通行人が  
気になり、ざわつき始める）

## 第二幕：最初のリアクション

（最初のお客がやってくる）

客1（サラリーマン風）（眉をひそめて）

「えっ：たい焼きにチーズ：？ どう考

えても邪道じゃない？」

客2（OL）（スマホで撮影しながら）「い

いや、でも最近こういう変わり種流行  
ってるし：なんか映えるかも？」

トム（満面の笑みで）「イエス！甘じょっぱさのハーモニー！まるで、たい焼きがピザになったかのような感覚！カリッとしたり皮を割れば、中からとろり溢れ出す濃厚チーズ！甘さの中に潜むコクが、君たちの味覚を爆発させる！」

（客が試しに購入。一口食べて驚く）

客1（目を見開き、震える声で）「……な、なんだこれは……！？たい焼きの常識が……ぶっ壊れた……！」

（口の中でチーズがとろけ、皮の香ばしさと絡み合う。ゆっくり噛むたびに異なる味わいが広がる）

客2（興奮しながら）「やばいやばい……このカリカリとろとろ感……罪の味！チーズ好きにはたまらない！」

客3（通りすがりの青年）（様子を見て）

「そんなにうまいの！？俺も食べる！」

（次々と客が注文し、たい焼きを食べる  
たびに歓声が上がる）

客4（主婦）（感動して）「えっ…これ、

子どもに食べさせたい！けど私が全部食  
べちゃいそう…！」

客5（学生）（友人と顔を見合わせ）「こ  
れ、ヤバい！映えだけじゃなくて、本当  
に美味いやつだ！」

（店の前が賑わい始める。人々が写真を  
撮り、SNSに投稿し始める）

魚住（驚きながら）「えっ…まさか、こ  
んなにウケるなんて…！？」

トム（得意げに）「俺の舌は世界共通だ！」

第三幕：奇抜な展開！

( SNS でバズったことで、とんでもない客が押し寄せる )

客 6 ( TVリポーター ) 「話題沸騰のたい焼きを取材に来ました！このチーズがとろける映像、まさに食テロ！」

( 店の前に行列ができ、全国から食通が集結。中には外国人観光客や、有名シェフも )

有名シェフ ( フランス人 ) 「ワタシハ、ミシュラン三ツ星ノシェフ！コノたい焼き、食べサセテモラウ！」

( たい焼きを口にし、驚愕するシェフ )

有名シェフ ( 震えながら ) 「コレハ…フレンチトースト、クロックムッシュノ融合…！？もはや芸術デース！」

（TV放送後、爆発的に売れ始め、店の前に人が溢れかえる。全国チェーン化の話も浮上）

魚住（目を白黒させ）「えっ…これ…ちよつとした思いつきのたい焼きだったはずが…こんなことに…!?」

トム（満面の笑みで）「ハハハ！夢はデかく、たい焼きはファニーに！行くぞ魚住、世界へ！」

#### 第四幕：世界進出！？

（舞台は某高級ホテルの食事の席。シャンドリアが輝く豪華なダイニング。セレブたちがワインを片手に談笑している。給仕が銀のプレートに乗せた『チェダーチーズたい焼き』を運んでくる）

（給仕がたい焼きを開けると、中からチーズがとろりと流れ出す。場がざわつく）

美食評論家（目を細めて）「このチーズの粘度：見事な伸び具合だ。香りは芳醇で、バター<sup>1</sup>の焦がし具合が絶妙：さて、味は？」

（一口食べ、沈黙。そして目を見開く）

美食評論家「：これは：っ！外はカリッと香ばしく、バターのコクと絶妙な塩味：そこにチーズの濃厚な旨味が折り重なり、口の中で爆発する！」

セレブA（興奮気味に）「Oh my god…これはなんて美しいの！？ゴールドンブレウンの外皮が輝いているわ！」

セレブB（恍惚の表情で）「サクサクの皮にジュワッと広がるバターの香ばしさ：まるで高級レストランのフォンデュを食べているようだわ：！」



大物セレブ（感動しながら）「トム、君の才能を買いたい。専属シェフにならないか？」

（場がざわつく。魚住が驚いてトムを見る）

魚住「すごいじゃないですか！高級ホテルの専属シェフだなんて！」

（しかし、トムは真剣な顔で首を振る）

トム「ノー、俺はたい焼きを作るために生まれてきたんだ。どんなに高級な場所でも、たい焼き屋の店主でいる方が、ずっと楽しい！」

（セレブたち、感動して拍手）

### 第五幕：帰国と衝撃の理由

（トムと魚住、日本へ帰国。『たい焼きトム』の店内）

魚住「…で、結局、どうしてあんな好条件を断ったんですか？」

（トムが渋い顔で口を開く）

トム「外国語を勉強するのめんどくさいから。」

魚住「…」

（魚住、心底呆れた顔で天を仰ぐ）

魚住「世界に羽ばたく才能が台無しじゃないですか！」

トム（笑いながら肩をすくめる）「まあまあ、俺はここでたい焼きを焼くのが一番楽しいんだよ！」

（たい焼き機から漂う、チーズの香ばしい香り。今日も『たい焼きトム』は賑わっている）

（幕閉じ）

1.

**第一幕（新作たい焼き誕生）**

2.

1. たい焼きの開発と魚住のリアク

ション

2. 約 10 分

3.

**第二幕（最初のリアクション）**

4.

1. お客のリアクションと SNS で話

題に

2. 約 10 ～ 12 分

5.

**第三幕（奇抜な展開！）**

6.

1. TV放送でバズり、大量の客が押し寄せる
2. 全国チェーン化の話が浮上
3. 約15分
- 7.

#### 第四幕（世界進出！？）

- 8.
1. 高級ホテルのシーン
2. セレブたちの絶賛と専属シェフのオファー
3. 約12～15分（もう少し濃密にする  
ると20分に伸ばせる）

9.

#### 第五幕（帰国と衝撃の理由）

- 10.
1. 帰国後のやりとり

2. 約 5 ～ 7 分